

SINPO コードについて

放送局へのリポートに、雑誌の DX ニュースに、受信状態を表わす方法として種々のコードやシステムが用いられている事は周知の通りです。思いつくままに列挙してみても SINPO コード、RSM システム、RST システム、QRK・QSA コード等々、かなり多くの種類があることがわかります。

これらのコード、システムには各々一長一短があり、それぞれ固定通信に或はアマチュア無線等に好んで用いられています。放送の受信リポートにもこれらの中の幾つかが用いられていますが、必ずしも統一されていないのが現状です。それでは放送のリポートにはどれが一番適当か? ということになりますが、それには放送局側の意見を聞いてみるのが何よりです。

国際放送に長い経験を有し、その格式と伝統を誇るオランダの Radio Nederland に聞いてみると、「完全な報告に越したことはありませんが時間がない場合には次のようなごく簡単なもので結構です」と極めて好意的です。それによりますと、受信状態を次の表のように 5 から 0 までの数字で表わすだけで十分だとのことです。

- 5: 国内放送と全く同じように素晴らしい状態でプログラムを楽しむことができる。
- 4: 話の内容が完全に、しかも容易に理解できる。
- 3: 僅かに努力すれば話の内容が理解できる。
- 2: 話の内容を理解するのにかなりの努力を必要とする。
- 1: プログラムの区別はつくが、その内容は理解できない。
- 0: 全く聞えない。

Radio Nederland は、これだけ書いてくれれば誰にでも必ずベリを送るとのことですから、私達にとっては有難い局の一つです。ところで、これではあまり話がうますぎる所以他局の意向も打診してみましょう。

国際放送における旧家の BBC および Radio Canada では総合品位に信号強度および混信状況を加えた三つの状態をそれぞれ 1 から 5 までの数字で表わすように望んでいます。

もう少しくわしいものを要求しているのは、VOA、スイスおよびベルギーの各局です。これらの放送局では以上の他に更にフェーディングをつけ加えてほし

いといっています。フェーディングも上記と同様に 1 から 5 までの数字で表わし , 数の多い方が状態の良いことを表わしています。更に完全なものとしては , 良い意味で几帳面な代表ドイツを始めとしてスエーデンおよびポルトガル , それに Radio Japan も一枚加わり , SINPO コードを使うことを主張しています。

このように見てきますと , 放送局へのリポートは SINPO が最も適当しているように思われます。なお , 放送局でこれ以上くわしい聴取状態の報告を要求している所は見当りません。また , 近年国際的にも SINPO コードを使用することが推奨されております。このため JSWC はそのリポート用紙にかなり以前から SINPO コードを使用しています。

	S (信号強度)	I (混信)	N (雑音)	P (フェーディング)	O (綜合品位)
5	甚だ強勢	無し	無し	無し	優秀
4	強い	軽微	軽微	軽微	優秀
3	やや強い	やや強い	やや強い	やや強い	良
2	弱い	強い	強い	強い	可
1	辛うじて 聞こえる	非常に強い	非常に強い	非常に強い	不可

SINPO コードは表に示す通りで既に大多数の方々が御存知のものですが , その評価には可成りの個人差もあり , 多分に主觀に左右されますので , この機会に解釈を統一しておくのが適当ではないかと思います。

受信機 , アンテナが異り DX の経験にも各人各様の相違がある以上 , SINPO の評価にも個人差はまぬがれませんが , この辺はリポーターの氏名を見て判断していただくとしてまず SINPO の評価を統一することにしましょう。

まず綜合品位の評価ですが , 具体的基準がないと何を優とし何を良と認めるか極めてむずかしい問題となります。この基準としては , 始めに掲げたオランダ案の綜合品位の表に従うこととします。つまり信号が弱くても混信が原因でも「僅かに努力すれば内容が理解できる」程度であれば綜合品位 O が 3 といった具合です。そして他の 4 つの信号強度 S , 混信 I , 雑音 N 及びフェーディング P は綜合品位 O を基準にきわめることとします ,

その原則的な考えは ,

- 1) 総合品位が 5 であれば , 他の全ては 5 でなければならない。(ただし , SINPO-55545 の場合はある。)

2) 総合品位が4以下である場合には、総合品位を低下させている原因を、その総合品位と同じに評価する。

3) 総合品位を低下させる原因が二つ以上ある場合には、その占める割合に従ってそれらの原因を評価する。

以上はあくまで原則ですから、他はこれに準じて解釈して下さい。特にフェーディングの評価は相当むずかしい問題を含んでおります。

(日本短波クラブ会誌国内版より抜粋)

PDF化にあたって

本PDFは、

『無線と実験』1958年3月号

を元に作成したものである。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新

(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館

(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。